

## 令和5年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第1回）		
日時	令和5年7月6日（木）14：00～17：00	場所	市役所本庁舎2階庁議室
出席者	市民評価委員 6名、アドバイザー 1名、説明者 6名、事務局 3名		

評価対象 施策	（1）地域資源を生かしたツーリズムの創出、推進 （2）スポーツ施設の充実、活用
会議概要	2施策について、施策評価表に基づき事業担当課が説明を行った後、評価委員が事業担当課にヒアリングを実施し、評価及び評価結果に対する議論を行った。

### ヒアリング・評価内容

<p><b>（1）地域資源を生かしたツーリズムの創出、推進</b></p> <p>① ヒアリング</p> <p><b>【委員A】</b> 観光PR事業費及びイベント支援事業費の詳細な実績、評価で市内観光施設等の回遊性の向上の測定方法について伺いたい。</p> <p><b>【説明者】</b> 観光PR事業費は、市ホームページや観光パンフレット、国内外でのプロモーション活動等の経費となっており、主なものとしては、観光PR大使関連に1,200千円、イベント関係に1,250千円、パンフレット関連に1,203千円、ホームページ・映像関連に1,980千円となっている。</p> <p>また、イベント支援事業費は、市民への交流と憩いの場を提供するとともに、観光客の誘客のため、市内で開催される各種イベントを運営している実行委員会に対して支援を行うための経費となっており、対象団体としては、千歳市民花火大会、支笏湖まつり、スカイ・ビア&amp;YOSAKOI祭、インディアン水車まつりの4団体に合計で15,551千円となっている。</p> <p>回遊性の向上の測定方法については、特段の効果測定は行っていないが、取組の一例として、「ちとせ割」、「ようこそ・ちとせ割」といった宿泊割引を実施する際に、市内で利用できる飲食クーポンや商品券を配布することで、宿泊だけではなく、市内の飲食店や観光施設への回遊促進を図っており、その結果として、利用者アンケートから一定程度の回遊がなされたことが確認できている。また、回遊性向上の取り組みとしては、さっぽろ連携中枢都市圏の取り組みとして、冬季の観光商品を造成・販売しており、札幌圏での広域的な周遊も図っている。</p> <p><b>【委員A】</b> 現在の指標について、観光施設や宿泊施設の観光客数はどのように測定しているのか。また、ラピダス社の立地に伴い、宿泊施設の利用者の層が変わってきており、単に「宿泊者＝観光客」とはならなくなることによって、事務・事業評価の指標が意図とずれてくると思うが、どのように考えているか。</p> <p><b>【説明者】</b> 観光入込客数については、市内の観光施設や宿泊施設、イベント主催者に月ごとの客数の調査を郵送やFAX、Eメールなどで依頼しており、算出方法については、支笏湖地区と市街地地区とで地域特性が異なることから、算出方法をそれぞれに設定している。</p> <p>支笏湖地域については、宿泊者はすべて観光客として解釈しており、これに加え、日帰り客やキャンプ場、ポロピナイ休憩所を利用した方の人数等を足して算出している。</p>
---

市街地地区については、宿泊数がベースではなく、各観光施設等の利用者数の積み上げにより算出しており、その内訳として、宿泊者の割合を引いたものが日帰り利用者となっている。

**【説明者】**

補足となるが、観光入込調査は、北海道が定めた要領に基づき実施しており、道の駅や支笏湖ビジターセンターなど市内の30数か所の地点を設定し、四半期ごとに報告をもらい、数字を積み上げている。ただし、一人で複数の施設を利用する場合や市民が利用する場合もあることから、5年をめどに実施する標本調査により算出した「観光客の率」や「平均訪問地点数」の係数をかけたものを観光入込客数としている。また、ラピダス社の関係者の宿泊先としては、市街地地区が想定されるが、市街地地区の宿泊施設は観光客数を積み上げるための地点として設定していない。北海道の要領に基づき、積み上げた観光客数のうち、日帰りと宿泊の種別を分ける際に、宿泊者数を差し引いて日帰りを算出して活用しているだけであり、仮にラピダス社の関係者が来てもその宿泊者数は観光客数全体には影響しない。ただし、宿泊として観光客ではない方が泊まることも想定されるので、標本調査において、「観光客の率」が現状と乖離していないか注視して、適正な数値を把握していきたい。

**【委員B】**

今後の方向性について、文章中に「ウィズコロナ・アフターコロナ期においては、観光を取り巻く環境やニーズが大きく変更すると予想される。」とあるが、「大きく変化する」とはどのようなことを想定されているのか。また、「市と観光連盟が中心となり、事業者や団体、市民と連携しながら」とあるが、市民との連携はどのようなことを進めていこうとしているのか。

**【説明者】**

大きな変化としては、受け入れる側の変化として、「観光業界の人材不足」が挙げられ、現場からも観光需要の増加への対応に苦慮しているとの声があがっている。

ニーズの変化については、モノ消費からコト消費への変化の動きがコロナ禍において急速に広がりを見せていることが挙げられる。また、インバウンドの回復については、国ごとに差がある。韓国・台湾は戻りが比較的早いですが、中国は団体旅行が解禁されていないといったこともあり、今後も状況を見極めながら、地域それぞれに異なった嗜好に対応し取り組んでいく必要があると認識している。

市民との連携について、一例として、「ちとせ・まち魅力検定実行委員会」が主催する「まち検」への支援を通じて、市民自らが市の歴史や文化などを学び、千歳の魅力を理解し、郷土愛を持っていただくことを支援しているほか、キウス周堤墓群の現地ボランティアガイドとの連携などがある。

**【委員C】**

道の駅では、地元の産物を買えるというイメージが強いが、千歳の道の駅の場合は地元とかけ離れたイメージがあり、「地域資源を生かした」道の駅となっていないように思うが、どのように考えるか。また、最近は駐車場も空いているので、このことについても考えるべきではないかと思うが、如何か。

**【説明者】**

地域特産品については、指定管理者制度の仕様書の中で「地域の農産物等を中心とした商品を扱うこと」、「市内の業者から商品を仕入れるように努力すること」を要件として記載しているところである。引き続き、市内の商品や農産物を中心に取り扱いてもらえるよう、指定管理者と協議しながら進めていきたいと考えている。但し、冬季間は農産品の手配ができないため、地元以外からの仕入れになってしまう。駐車場については、以前は道の駅の建物管理と駐車場等の事業が分かれていたが、今年度から駐車場も含めた指定管理者制度で実施している。

**【委員C】**

道内のほとんどの道の駅では、その地域の名産品を買えるが、千歳の道の駅はそうではない。指定管理ということはわかるが、もう少し市から意見を述べてもよいのではないか。

**【説明者】**

このたびの指定管理者は、仕入先などについても指定管理者が判断するものであるが、その中でどういった協力をいただけるかについて、定期的に協議していきたいと考える。

**【委員D】**

スポーツ合宿件数の体育施設利用申請件数は、合宿の申込数なのか。

**【説明者】**

合宿の申込数である。申込は陸上の実業団が主であり、1回の利用日数の長短を問わず、1件とカウントしており、また、同一の団体の申込であっても、利用ごとに1件とカウントとしている。団体数としては、30程度が利用している。

**【委員D】**

例えば、大相撲だと部屋を構えた地域の方と交流があるが、スポーツ合宿の場合は、地域との交流はあるのか。

**【説明者】**

コロナ前は、実業団等と市民との交流を進めてきたところであるが、コロナの影響でなくなってしまった。コロナが明けてきたことから、再度、交流機会を再開できないか協議していきたいと考えているが、あくまでも選手強化のための合宿であり、交流をメインとすることはできない。

**【委員E】**

スポーツ合宿の延べ日数は、把握しているか。

**【説明者】**

延べ 858 日である。

**【委員E】**

1件あたりの使用日数を増やしていくのか、多くの実業団等に使用していただくのか、市としての合宿誘致の方針を伺いたい。

**【説明者】**

市としては、より多くの実業団等に来てほしいと考えている。また、長く利用してほしいことは当然であるが、1回当たりの使用日数は実業団等の強化スケジュールによるため、市から要望は出せない。新しい実業団等の発掘を進めるとともに、長く使用してもらえるような誘致活動を実施してきており、今後も継続していく方針である。

**【委員E】**

誘致活動の具体的な内容はどのようなものか。

**【説明者】**

「ホクレン・ディスタンス」という大会を本市で毎年開催していただいております、その時に参加いただいた実業団等にお声がけしているほか、年に2回ほど、実業団等の事務所を訪問し、誘致活動を行っており、今後も継続して実施する。

**【委員C】**

長くいてもらうための方法や、多くの実業団等に来てもらうような方法は考えているのか。

**【説明者】**

他の自治体では補助を行っているところもあるが、本市では、2日以上宿泊される場合、体育施設の使用料を全額免除している。

**【委員C】**

「ホクレン・ディスタンス」については初めて聞いたが、周知が足りないのではないかと。市民にいかに伝えるのかが重要であり、どういう形で伝えていくのか考えてほしい。

**【委員F】**

「ホクレン・ディスタンス」はポスターが掲示されているのを見たことがある。

**【説明者】**

ポスターを 100 枚ほど作成しており、駅や市の公共施設のほか、小中学校に掲示をお願いして

いる。また、LINE や Instagram、Twitter、市ホームページなどでも周知している。

**【委員D】**

SNS は我々の世代では見る人は少ない。また、駅は用事がなければ行くことはない。商業施設や飲食店など、もっと市民の目につく施設等に掲示した方がよいと思う。

**【説明者】**

商業施設や飲食店などの民間の施設への掲示依頼については、今後検討していきたい。

**【説明者】**

補足として、「ホクレン・ディスタンス」は道内5都市で開催しているが、5都市の中で本市での開催が一番、参加者数が多い。

**【委員F】**

合宿をする団体としては、陸上の実業団等の合宿が多いのか。

**【説明者】**

陸上の実業団等が99%程度、そのほか団体としては、よさこいチームの合宿がある。

**【委員A】**

受け皿としては、宿泊施設や体育施設等が整備されていると思うが、産業として考えたときに、関連産業の育成としてはどのように考えているか。

**【説明者】**

観光分野では、現在の取組として、プロモーション系の事業が多いところである。飲食等の育成についての取組はないが、宿泊施設については、宿泊施設のグレードアップや支笏湖地区の飲食店を中心とした店内改装などについて、観光庁の補助制度があることから、市としては、計画等の取りまとめ等を行って支援しているところである。

**【説明者】**

合宿においては、昼食を出してもらえるホテルはないかといった問い合わせが多く、スポーツ合宿大会誘致推進協議会の会員でもあるホテルにチームのニーズを伝え、現在、4~5件のホテルに対応していただいている。直接手を加えて育成ということはしていない。

**【委員A】**

チームのニーズに対して千歳市内の業者等で対応できているのか。

**【説明者】**

昼食については、市内のホテルで対応できている。チームによっては、栄養士をつれてきて自分たちで調理するパターンもあり、レンタルキッチンを使用する場合は、空き店舗対策として、商工会議所等と連携して対応している。

**② 評価**

**【アドバイザー】**

合宿や大会の誘致は、市民に対してどのように見せたいのかがよくわからなかった。参加してもらうことと、知ってもらうこととで区別したPRが必要であると感じた。

**【委員E】**

新型コロナウイルス感染症による制限からの回復途中なので、ある程度イベント参加の動きが戻ってからという考えなのだと思うが、それでは、いざ戻ったときに新たなアイデアが浮かばないのではないかと。むしろ大変な時の方が良いアイデアが浮かぶ。次に何を行うかという担当課の考えがあまり見受けられなかった。

**【委員A】**

観光振興プランの計画指標の推移では、観光消費額をあげており、経済効果を狙っているが、そこが欠けている。観光消費額の向上につながる施策展開が必要と考える。

**【アドバイザー】**

合宿についても、稼働率を増やしていくのか、多くの団体に利用していただくのか、指標の明

確化が必要である。

**【委員F】**

合宿誘致については、他に好立地な自治体があればそちらに誘致されてしまうのではといった危機感を持っているかが懸念される。

**【委員C】**

空港が近いなど地域特性によって来てくれているのであって、もっとコンセプトや戦略性を持って取り組むべきと考える。

**【アドバイザー】**

関連産業の構築についても、今日の話でヒントがあったが、昼食のニーズがあるのであれば、それを提供できる人たちで、スポーツ的な栄養素を提供できるような管理栄養士がいるといったものがあっても良いかもしれない。

**【委員D】**

千歳を単に宿泊するためだけの場所として利用するケースが多い。グリーンツーリズムやエコツーリズムなど、さらなる取組が必要と考える。

**【委員B】**

人材不足は大きな問題である。直接補助できるかは別として、こうした問題があることを表に出していくことも必要ではないか。

**【アドバイザー】**

人材不足が、この施策を推進していくための大きな阻害要因になってくるところでは、何かしらの取り組みが必要と思われる。

この場では、「維持」と整理してよいか。

—異議なし—

## **(2) スポーツ施設の充実、活用**

### **① ヒアリング**

**【委員A】**

取組の方向性の記載事項の中で、「スポーツニーズに沿って計画的に整備」とあるが、市民の幅広い市民ニーズを収集するためにどのようなことを行っているのか。

**【説明者】**

市長への手紙のほか、体育協会からの意見や要望、千歳市スポーツ推進員・指導員との意見交換、市民からのメール・電話、千歳市スポーツ議員連盟との意見交換、市内スポーツ団体との意見交換などにより、幅広い市民のニーズを図っているところである。

**【委員A】**

総合計画においては、人口増に重きを置いているが、人口増に向けた公共スポーツ施設の在り方について、どのように考えているか。

**【説明者】**

公共施設全体の管理については、公共施設総合管理計画に基づいて管理を行っており、今後の人口増に伴う計画については、将来の人口構成や財政状況等の見直しにより、計画の見直しを行うこととなっていることから、スポーツ施設についても、今後の総合管理計画等の見直しに基づいて、今後検討していく。

**【委員B】**

スポーツ人口の構成変化や市民ニーズの変化について、実際に千歳市ではどのように変化してきているのか。

**【説明者】**

スポーツ庁で実施している「令和4年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」の中で、20歳以上で週1回以上の運動を実施している人の率は52.3%、男女別では、それぞれ54.4%と

50.2%といずれも4%程度下がっており、男性より女性の方が低い傾向がある。

また、年代別で週1回以上の運動を実施している方の率もすべての年代で前年度を下回っており、特に20代・50代はスポーツを行う傾向が低くなっている。

さらに、1日30分以上の汗をかく運動を1年以上実施している方の率も20歳以上で27%となっており、すべてにおいて運動する方が減っているという傾向にあり、本市においてもおおむね同様の傾向にあると考えている。

市民ニーズの変化としては、オリンピック競技となった影響により、最近はスケートボード施設を作ってほしいといった意見がある。

**【委員B】**

事中・事後評価について、すべての事業の貢献度が「a」としていることについて教えてください。

**【説明者】**

記載要領に基づき、すべての事業が施策の実現に直結する事業と判断し、「a」としたものである。

**【委員A】**

「つばさ公園庭球場改修事業費」と「市営・学校水泳プール改修事業費」は令和5年度以降の予算がないが「維持」となっているのはなぜか。

**【説明者】**

改修が終わっても管理する業務が出てくる。スポーツ施設であることには変わりなく、予算はついていないが、方向性は「維持」としている。

**【委員C】**

「市営・学校水泳プール改修事業費」は令和4年度で終了するのか。

**【説明者】**

令和4年度は、プールのボイラーの老朽化による改修を行った。改修は毎年度実施してきており、令和4年度で一区切りとなる。

**【事務局】**

委員Aと委員Cの質問は、「つばさ公園庭球場改修事業費」と「市営・学校水泳プール改修事業費」について、令和4年度で終了するのであれば、令和5年度の方針性は「終了」でよいのではないかということである。

**【アドバイザー】**

この2事業の令和5年度の方針性については、「終了」として取扱いでよろしいか。

－異議なし－

**【委員F】**

武道館の駐車場横の芝生については、何か用途はあるか。

**【説明者】**

スナックゴルフなどのスポーツ活動において、芝生を使用している。

**【委員D】**

スポーツ施設の利用に関するアンケートについて、利用者の満足度が92.3%となっている。指標の内容では、「とてもよい」「よい」「ふつう」と回答した人の割合となっているが、これらを合わせれば相応の数値になるのは当然であり、この指標の内容で良いのか疑問に思う。「よくない」と回答した人の内容の方が大事ではないか。

**【委員E】**

アンケートの内容がよくない。「ふつう」は受ける側が都合の良いように解釈できることから、「ふつう」を外すなど、内容を見直した方がいい。

**【アドバイザー】**

第7期総合計画では、評価の指標を変更できるので、会議の中でどうしていくべきなのか検討していただければと思う。

**【委員E】**

委員Aの回答の中で、体育協会からの意見や要望、千歳市スポーツ推進員・指導員との意見交換、市民からのメール・電話、千歳市スポーツ議員連盟との意見交換、市内スポーツ団体との意見交換は、どのように扱っているか。公開されていない情報であるならば、根拠に欠ける。

**【説明者】**

メールや電話により把握した市民からのニーズは、公開してはいるが、内部で決裁をとり、対応が可能な範囲で指定管理者と話し、速やかに対応している。大規模な修繕については、すぐには改修できないので、全体として優先順位を決めて、計画的に対応している。

**【委員E】**

市民から把握したニーズに基づいて実施したことは、何らかの形で公開するようにしたほうが良いと考える。公開することにより、利用者のニーズを聞いているということを示すことができる。

**【委員C】**

様々な要望があると思うが、市民目線ではその要望について、どのように最終決定したかを確認したいので、公開するべきと考える。

**【アドバイザー】**

修繕などは順次対応しているとのことだが、対応した施設利用者の満足度は上がっていくと思うが、大規模な改修ですぐに行えずに施設が利用できない場合は、利用者が減ることも想定される。ニーズを受け止めていて、対応できずに指標に影響を与えているような実態はあるか。

**【説明者】**

修繕に関しては、ケガが発生する危険度が高い施設を優先しており、現時点でこのまま放置することによりケガが発生するような危険度の高い施設はない。

**【委員C】**

スポーツセンターはバレーボールの公式な大会ができないと聞いた。改修を行うなど、何らかの取組を行うことで施策を展開できるのではないかな。

**【説明者】**

昨年度、プロの女子バレーチームがスポーツセンターで試合を実施している。

市内のスポーツ施設は全体的に老朽化しており、財源的な課題が多くあるので、危険度に最優先にした改修しかできていない状況である。

**【委員F】**

武道館の土俵は、現在使用しているか。

**【説明者】**

過去に、町内会の子ども相撲大会などを開催していたと聞いているが、現在は利用がない。しかし、いつでも使用できるように維持管理している。

**【アドバイザー】**

管理しているスポーツ施設で事故があったときはどのように報告されるか。

**【説明者】**

施設管理者から随時、報告されるようになっている。

**【委員E】**

現在のニーズに合わせた新しいスポーツ施設を作るという場合は、観光スポーツ部スポーツ振興課が担当となるのか。

**【説明者】**

観光スポーツ部スポーツ振興課が担当となる。

**【委員E】**

担当課として、新たなスポーツ施設を作るといった計画はあるか。

**【説明者】**

現時点ではない。

② 評価

**【アドバイザー】**

評価指標として、「ふつう」を含めて9割を目指すことに意味があるのか疑問である。「よくない」と思っている少ないニーズを聞くことも重要ではないか。

また、把握した市民ニーズを施策に反映していることを公開することで、市民にも伝わるようになる。

**【委員C】**

グリーンベルトの整備が進んでいるが、例えば、そこにスケートボードなどの施設を作るなど、新たな発想があるとおもしろい考える。

**【アドバイザー】**

他の地域では、民間による体育施設が多いところもある。民間施設も含めて、スポーツ施設の拡充ということもできるのではないか。

**【委員B】**

今ある施設を維持することに主眼を置いていて、市民ニーズに対する取組が不足している。

**【委員D】**

取組の方向性が現状維持であり、新たな方向に向いていない。

**【委員E】**

施策の評価については、新しいものを取り込めるような新たな事業がなければ厳しい。「維持」ということで良いのではないか。

**【アドバイザー】**

では、方向性については、「維持」としてよろしいか。

—異議なし—